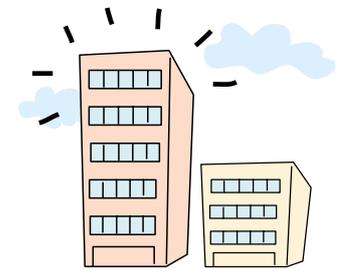
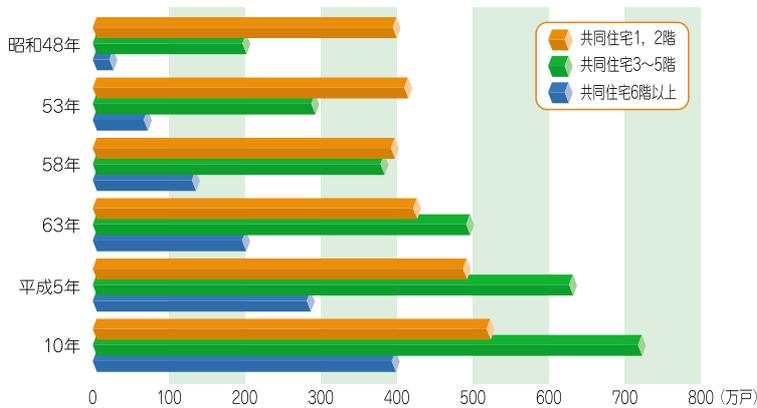


マンションなどの
共同住宅の高層化が進む
共同住宅の約7割を占める
3階建以上の住宅数

平成10年のマンションなどの共同住宅の内訳をみると、1・2階建の住宅が共同住宅全体の31.8%、3～5階建の住宅が43.8%、6階建以上の住宅が24.3%と、3階建以上の住宅で約7割を占めています。

これを平成5年から5年間の増加率でみると、1・2階建6.2%増、3～5階建14.2%増、6階建以上38.3%増と高層になるにつれて増加率も高くなっており、今後もマンションなどの高層化がさらに進行するものと思われます。

共同住宅の階数別住宅数の推移 全国（昭和48年～平成10年）



< 建築時期 >

日本の住宅の約5割は
築18年以内

住宅の建築時期をみると、戦後生まれの住宅は4119万戸、住宅全体の約9割を占めています。

その内訳は、終戦時～35年に建築された住宅が260万戸（5.9%）、36年～45年が548万戸（12.5%）に対し、46年～55年が1149万戸（26.2%）と1000万戸を超え、56年～平成2年が1197万戸（27.3%）となっています。これ以降は平成3年～7年は631万戸（14.4%）、8年～10年9月が334万戸（7.6%）となっており、昭和56年以降の18年間に建築された住宅は住宅全体の約5割を占めています。



建築の時期別住宅数 全国（平成10年）

